

開講期	2026年度後期			単位数	2.0単位
科目[授業]名	1112 映像表現の地平B			開講形態 (隔週 偶数 = 隔週2コマ)	週間授業
種別	なし			定員	
履修可能学年	全学年履修可	重複履修	×	全学開講	○
曜日時限	金曜3限				
教室	D202教室				
代表教員	角尾 宣信				
担当教員	角尾 宣信				
テーマと到達目標	世界の映画の歴史を学び、映像表現の変遷や多様性などについて学びます。また、あらゆる国の作品に触れることで、国・地域の特異性ととともに、世界共通の「言語」としての映像表現への理解を深めます。				
概要	本講義では19世紀末から現在までの映画・映像史を扱い、映画がどのように発展し現在に至ったのか、技術的、産業的、美学的側面など様々な観点から考察していきます。				
対面科目/オンライン科目	対面科目				
授業計画				担当教員 (複数の教員が担当する場合のみ記載)	授業方式
第1回	オリエンテーション、授業概要や授業方法等の説明、イントロダクション				対面授業
第2回	19世紀：映画前史、初期映画				対面授業
第3回	1900～1910年代：ナショナル・シネマの始まり				対面授業
第4回	1910～20年代：サイレント後期				対面授業
第5回	1920～30年代：トーキーの始まり				対面授業
第6回	1930～40年代：スタジオシステム				対面授業
第7回	1930～40年代：ドキュメンタリーと実験映画				対面授業
第8回	1930～40年代：戦時下の映画				対面授業
第9回	1940～50年代：戦後の映画				対面授業
第10回	1950～60年代：ネオレアリズモとヌーヴェル・ヴァーグ				対面授業
第11回	1960～70年代：政治的映画				対面授業
第12回	1970～80年代：アジア、アフリカの映画				対面授業
第13回	1980年代～：グローバル映画				対面授業
第14回	1990年代～：ビデオからデジタルへ				対面授業
第15回	まとめ				対面授業
成績評価の基準	定期的な小レポート（200字以上。提出方法等は初回授業で指示）と、学期末レポート（課題内容や提出方法等は後半の授業回で指示）により、成績評価します。出席はポータルでの登録により管理しますが、欠席が6回以上の者は単位認定しません。また、インターネット上等から複写した文章を出典明記せず記載した回答は、一回でも「剽窃行為」として不可、複数の者が同文の回答を提出した場合も全員を不可とします。				
履修にあたっての留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 授業で扱う作品に関しては、長さによっては事前に見てきてもらう場合があります。その場合には、予習の時間がかかると同時に、映像視聴料が必要となる場合があります。予習作業の有無に関しては、その前の回の授業でお知らせします。</li> <li>・ 各回授業計画は、実際の授業の進み具合により変更される可能性があります</li> </ul>				
オンライン授業方式(同時双方向型・オンデマンド型)の詳細					
【種別】人数制限(抽選)授業の優先条件					

## ◆教科書・教材

教科書以外に必要な教材費用	ネット上での視聴料などが発生する場合があります。		
教科書	各授業で資料を配布します。	教科書(ISBN)	
参考文献	アンドレア・グローネマイヤー『ワールド・シネマ・ヒストリー』(晃洋書房)、石坂健治ほか編『アジア映画で〈世界〉を見る――越境する映画、グローバルな文化』(作品社)、出口丈人『映画映像史――ムーヴィング・イメージの軌跡』(小学館)、エラ・ショハット、ロバート・スタム『支配と抵抗の映像文化――西洋中心主義と他者を考える』(法政大学出版局)など。	参考文献(ISBN)	

## ◆合理的配慮

本学における修学支援基本方針について	本学における修学支援基本方針は以下URLを確認してください <a href="https://www.wako.ac.jp/campuslife/barrier-free.html">https://www.wako.ac.jp/campuslife/barrier-free.html</a> 合理的配慮を希望する場合は基本方針およびシラバスを熟読の上で申請すること
--------------------	--